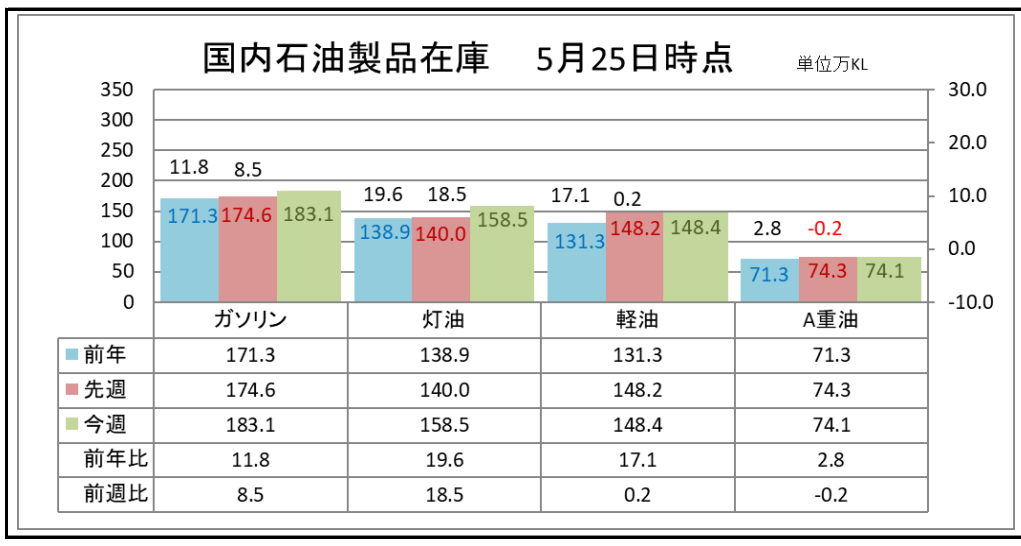
# イデックスオイルレポート　~For a week~

㈱新出光

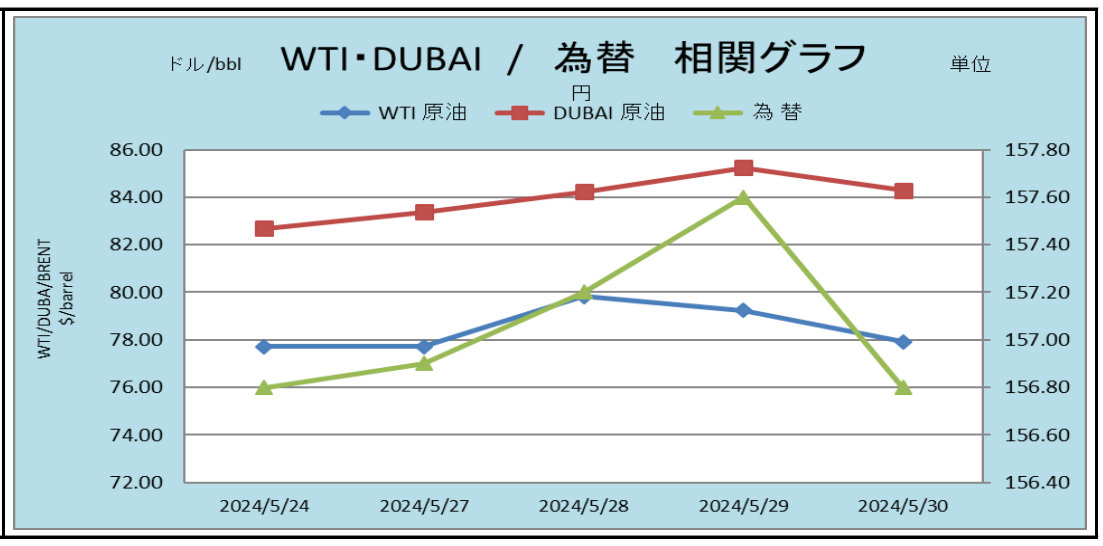
## 【概況】

●24日、原油相場は前日、2月下旬以来約3カ月ぶりの安値を付けた。米連邦準備制度理事会（FRB）高官らの最近の発言に加え、連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（4月30日、5月1日開催分）で、依然として強いインフレへの警戒姿勢が示されたことが判明し、早期利下げ観測が幾分後退。金利据え置きが長期化すれば、米景気やエネルギー需要の後退につながるとの懸念が原油売りを促した。この反動から24日の相場は買い戻しが先行。米メモリアルデー27日）に伴う3連休を控え、調整的な買いも入り相場は77.72ドルへ反発しました。
●27日、メモリアルデーのため休場。
●28日、外国為替市場ではドルが対ユーロで下落。ドル建てで取引される商品に割安感が生じ、買いが先行した。また、6月2日に予定される石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」の閣僚級会合で、現行の自主減産量が維持されるとの観測も相場の支援材料となった。相場は前週に2.92%下落しており、安値を狙った買いや持ち高調整の買いも入り相場は79.83ドルへ続伸しました。また、一方、ミネアポリス連邦準備銀行のカシュカリ総裁は28日、ロンドン市内での講演で米連邦準備制度理事会（FRB）の金融政策について追加利上げを排除しないとしつつも、政策金利を現行水準で維持する可能性が高いとの認識を示した。米コンファレンス・ボードがこの日発表した5月の消費者景気信頼感指数は102.0と、市場予想（ロイター通信調べ）の95.9を大幅に上回っており、堅調な景気動向もあり早期の利下げ観測は遠のいている。高金利環境が続けば需要を冷やす要因になりかねない状況。
●29日、前日からの強地合いを引き継ぎ、朝方にかけては80ドル台で推移。石油輸出国機構加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」が6月2日に開く会合で、日量計約220万バレルの自主減産を延長するとの見通しや、北半球が夏の行楽シーズンを迎え、自動車や航空機での旅行増加に伴う燃料需要の拡大期待が買いを促した。しかし、米長期金利の一段の上昇を眺めて次第に売りが優勢となり、相場はマイナス圏に転落。前日発表の民間調査で5月の消費者景気信頼感が予想外の改善を示したことを受け、市場では連邦準備制度理事会政策金利を想定より長く高水準で維持するとの見方が強まっている。また、FRBはこの日午後に公表した全米12地区の連銀景況報告（ベージュブック）で景況判断を上方修正。高金利環境が続けば、景気を冷やすとともにエネルギー需要も減退するとの懸念がくすぶり相場は79.23ドルへ反落しました。
●30日、翌31日に米個人消費支出物価指数の発表を控え、米国株や原油先物などリスク資産の手じまい売りが先行。米エネルギー情報局が午前に公表した週報は、強弱まちまちの内容。原油在庫は420万バレル減。一方、ガソリン在庫は200万バレル増（予想50万バレル減）、ディスティレート（留出油）は250万バレル増（同20万バレル減）と、予想に反して積み増しとなった。夏場のドライブシーズンを前に、製油所稼働率が上昇したにもかかわらず、ガソリンやディーゼルの需要が鈍いことを示す結果に失望感が広がり相場は77.91ドルへ続落しました。

| 5月31日 | 16:00現在 | WTI原油 | 77.87ドル | 為替　1ドル | 157.74円 |
|---|---|---|---|---|---|




| | ガソリン | 灯油 | 軽油 | A重油 |
|---|---|---|---|---|
| 前年 | 171.3 | 138.9 | 131.3 | 71.3 |
| 先週 | 174.6 | 140.0 | 148.2 | 74.3 |
| 今週 | 183.1 | 158.5 | 148.4 | 74.1 |
| 前年比 | 11.8 | 19.6 | 17.1 | 2.8 |
| 前週比 | 8.5 | 18.5 | 0.2 | -0.2 |




| | 次回元売変動予測 6/6～ | 元売変動予測 |
|---|---|---|
| ガソリン | → | −0.4～+0.1 |
| 灯油 | → | −0.4～+0.1 |
| 軽油 | → | −0.4～+0.1 |
| A重油 | → | −0.4～+0.1 |
| LSA | → | −0.4～+0.1 |

※原油コスト「0.5円～1.0円」
※激変緩和補助金「−26.3円」　前週比−0.6円
※現時点での予測です。

## 【製品卸価格】

≪今週≫今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「0.5円」、補助金は、「−25.7円・60%」、都合「▲0.1円」の改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの20日時点の小売価格平均は175.0円となっております。
≪6月6日以降≫次回の元売り改定は、原油コストは「0.5円～1.0円」、激変緩和補助金は「−26.3円・60%」の見込みで、都合「▲0.1円～+0.4円」の改定の予測となっています。

## 【次世代エネルギー】　＜関西国際空港では初となる、空港内作業車両にバイオディーゼル「B30燃料」を供給＞

富士興産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：川崎靖弘）は、$CO_2$排出量削減に寄与する軽油代替燃料であるバイオディーゼル B30 燃料（以下B30 燃料）を、株式会社Kグランドサービス（本社：大阪府泉佐野市、代表取締役：渡邉泰伸）が所有する空港内作業車両「トーイングトラクター＊」に供給を開始したことをお知らせいたします。
B30燃料は、軽油に脂肪酸メチルエステル（FAME）を30%混和した燃料で、主に空港や港湾、工場等私有地内で稼働するナンバープレートの付いていない車両の燃料として使用することができます。
本取組では、軽油からB30燃料に切り替えることで、およそ1 台当たり約 2,808kg/年の$CO_2$ 排出量削減効果があると試算しています。
関西国際空港向けに供給するB30燃料は、植田油脂株式会社（本社：大阪府大東市、代表取締役社長：髙橋史年）が関西近郊より回収した廃食油を基原料に製造したFAMEと、軽油とを当社が混和製造した燃料です。

[出典]富士興産　https://ssl4.eir-parts.net/doc/5009/announcement/99551/00.pdf
https://www.fkoil.co.jp/news/

© 2024 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.